

新波止砲台跡(国指定重要文化財)(鹿児島市本港新町)

薩英戦争時、使用された砲台の一つ。150ポンド爆砲1門、80ポンド爆砲1門はじめ11門を装備。当砲台からの砲撃が、イギリス側ユーリアス号に命中するなどイギリス艦隊も大きな損害を被った。
鹿児島市サイトによる

島津斉彬が建設 鹿児島城下の主力砲台

鹿児島城下の防衛のために設置された主力砲台。島津斉彬が、1846年頃に建設されていた防波堤を改築し、凝灰岩の切石によって砲台を建設しました。薩英戦争時には、国内最大級の150ポンドボンカノン砲をはじめとする11門の大砲を配備。イギリス艦隊と交戦します。イギリス側の記録には、新波止砲台から発射された砲弾が、旗艦ユーリアス号に命中し、ジョスリン艦長らが戦死したと記されています。1872年、一丁場台場が新波止砲台の南、約87mの地点に築かれましたが、1904年の継ぎ足し工事によって現在は2つの堤防がひとつに繋がっています。

地表遺構の有無

砲台跡に関係すると思われる石垣が残っています。新波止砲台は安政元年(1854)に石造りの波止場(新波止)を改造したものです。明治5年(1872)頃に、防波堤「一丁台場」が築かれ、明治37年(1904)にその間をつなぐ「遮断防波堤」が、鹿児島県による修築事業によって竣工しました。現在は、港湾整備事業に伴う海側の埋め立てにより、防波堤としての役割を終え、水路に面した護岸となっています。

「どんどんかごしまの旅」による

